

I. 法人の概要

1. 学校法人の沿革

- 昭和 26 年 6 月 愛知県より菊武タイピスト学校（現：菊武ビジネス専門学校）設置認可
- 昭和 28 年 2 月 愛知県より学校法人高木学園（現：菊武学園）設立認可
- 昭和 37 年 4 月 守山女子商業高等学校（現：菊華高等学校）開設
- 昭和 40 年 4 月 名古屋女子商科短期大学（現：名古屋経営短期大学）開設
- 昭和 43 年 4 月 守山女子商業高等学校に通信制課程開設
- 昭和 44 年 4 月 菊武幼稚園開設
- 昭和 63 年 4 月 名古屋女子商科短期大学に経営情報科開設
- 平成 元年 4 月 ビジネス専門学校名古屋インフォメーションスクール開設
- 平成 4 年 4 月 守山女子商業高等学校を菊華高等学校と改称し、全日制課程普通科開設。
- 平成 7 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンス開設
- 平成 8 年 5 月 ビジネス専門学校名古屋インフォメーションスクール廃止
- 平成 12 年 4 月 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部開設
- 平成 16 年 4 月 名古屋産業大学大学院前期（修士）課程（環境マネジメント研究科）開設
名古屋産業大学環境情報ビジネス学部に人間環境マネジメント学科増設
- 平成 19 年 4 月 名古屋経営短期大学ビジネス実務学科・人間情報学科の募集を停止し、2 学科を統合した形の総合ビジネス学科を開設。
名古屋産業大学大学院後期（博士）課程（環境マネジメント研究科）開設。
名古屋経営短期大学子ども学科開設。
- 平成 20 年 4 月 名古屋経営短期大学健康福祉学科開設。
- 平成 23 年 4 月 稲葉保育園開設（尾張旭市指定管理事業）
菊華高等学校にスポーツアクトコース開設
- 平成 24 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンスの校名を変更
専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院に改称する。

2. 設置する学校の学部、学科および各学校の入学定員、現員数

平成 24 年 4 月 1 日現在

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
名古屋産業大学大学院	環境マネジメント研究科	前期課程 10 人	20 人	10 人	21 人
	環境マネジメント専攻	後期課程 3 人	9 人	0 人	3 人
名古屋産業大学	環境情報ビジネス学部				
	環境情報ビジネス学科 人間環境マネジメント学科	220 人 募集停止	920 人	176 人	711 人
名古屋経営短期大学	総合ビジネス学科	135 人	270 人	61 人	138 人
	子ども学科	60 人	220 人	45 人	123 人
	健康福祉学科	60 人	120 人	30 人	70 人

菊華高等学校	全日制課程情報ビジネス科	270人	810人	54人	147人
	全日制課程普通科	90人	270人	251人	569人
	通信制課程商業科	230人	690人	197人	461人
学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
菊武幼稚園		69人	209人	72人	210人
菊武ビジネス専門学校	商業実務専門課程	80人	80人	21人	21人
	商業実務高等課程	240人	720人	197人	461人
ビジネス教養専門学校 エクセレンス	商業実務専門課程	200人	320人	100人	202人
	文化教養専門課程	募集停止			
合 計		1,667人	4,658人	1,214人	3,137人

3. 役員に関する事項

当学園の平成 25 年 3 月 31 日現在の選任区分別理事及び監事は以下のとおりです。

寄附行為の理事定数は 8~11 人、監事定数は 2~3 人で、欠員はありません。

- 1号理事（教職員）：伊藤 雅一、山岸 鳴門、馬淵 正雄
 2号理事（評議員）：高木 弘恵、井元 明正
 3号理事（学識経験者）：高木 清秀、吉田 雅樹、岡谷 篤一、渡邊 哲郎
 山口 淳

監 事：青木 修（常勤）、那須 國広（非常勤）、澤田 忠男（非常勤）

4. 評議員に関する事項

当学園の平成 25 年 3 月 31 日現在の選任区分別評議員は以下のとおりです。

寄附行為の評議員定数は、19~24 人で、欠員はありません。

- 1号評議員（法人職員）：高木清秀、山口 淳、二宮邦夫、内山 哲治
 杉村邦彦、神谷 篤、天野雪代
 2号評議員（学園卒業者）：浅井明己、大石清美
 3号評議員（学識経験者）：高木武彦、高木重幸、井元明正、池田英二、竹内隆史 平本晴康
 渡邊哲郎、高木秀典、高木弘恵、原田隆史、大嶋啓介
 市橋 豊、杉山寿美

5. 教職員・その他に関する事項

平成 25 年 3 月 31 日をもって任期が満了する名古屋産業大学学長の伊藤雅一氏は再任となり、平成 25 年 3 月 31 日付で退職される名古屋経営短期大学学長古橋エツ子氏の後任には理事長の高木弘恵氏が選任されております。

評議員の選任決議済みの変更は、以下のとおりです。

3号理事 古橋エツ子氏が、平成 25 年 3 月 31 日をもって辞任されることに伴い、3号評議員に、平成 24 年 9 月まで大学・短大事務局長で 1号評議員であった加藤達也氏の退職に伴い、後任として平成 25 年 4 月に大学・短大事務局長に就任する水野武文氏が新しく 1号評議員に就任することになっております。

II. 事業の概要

1. 平成 24 年度の入学者数

平成 24 年度の入学者数は、大学は大学院も含めて 6 名の増、短大では 35 名の減、高校で 70 名増、幼稚園は 1 名増、菊武ビジネス専門学校は 38 名の増、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院は 23 名減で学園全体の入学者数としては、156 名の増となりました。しかし、大学の人間環境マネジメント学科の募集停止と短大の不振が大きく、菊華高校及び菊武ビジネス専門学校の入学者増を吸収してしまい学園全体の在学生総数は前年度より 16 名少ない 3,137 名となりました。

2. 平成 24 年度のその他の事業概要

【学園本部】

24 年度は、懸案であった高校本館・北館耐震化工事に部門と協力して取り組みました。

24 年度も 4 月「各部門の新年度の重点取り組み」、6 月「ソフトバレーボール大会」、9 月講演会「ピンチをチャンスに変えよう～学園間競争に勝ち残るためのモチベーション戦略」、12 月行動力向上研修「仕事をスピードアップして愛情教育に全力投球」、1 月「新年決意式と講演会」、3 月「教職員の表彰と懇親会」と計 6 回の学園研修を実施し、8 月には、メインイベントである「菊武夏まつり」を実施し、アイドルユニット「OS☆U」が出演しました。

【名古屋産業大学】

大学では、24 年度よりビジネス・トレーニングプログラムを中心とした実践教育重視の新カリキュラムがスタートしました。5 月には長野県阿智村昼神温泉エリアサポート・尾張旭市と 6 月には三重県津市美杉村の太郎生（たろう）地域づくり協議会と「農山村インターンシップ（就業体験）協定」を結びました。また、6 月初旬には尾張旭市・あいち尾東農協の協力を得て 2 回目の「田んぼアート」を開催し、6 月下旬には台湾・教育部幹部を講師に招き「名古屋産業大学環境情報ビジネス学会国際シンポジウム」を開催しました。7 月には日本学生支援機構の留学生交流支援制度を利用して台湾・育達商業科技大学から 7 名の短期留学生を受入ました。一方、本学からは、台湾・育達商業科技大学に交換留学生 1 名、短期留学生 3 名、語学研修生 15 名の計 19 名を派遣し、豪州・グリフィス大学には語学研修生 6 名を派遣しました。9 月には学生が運営している「(株)名古屋産業大学グリーン・ソーシャルビジネス」と連携し、1,2 号館の電灯 1,123 本を LED 照明に交換する工事を行いました。11 月には大学と姉妹校の台湾・育達商業科技大学との学術交流の一環として、海外インターンシップ協定の調印式を行い、地元観光協会や台湾大手ホテルチェーンと協定を結びました。12 月には尾張旭市本地ヶ原連合自治会とまちづくりを推進する「域学連携協定」を、また、2 月には三重県立四日市農芸高等学校と「高大連携教育協定」を締結しました。さらに、3 月には、台湾・育達教育文化機構と本学園の交流 45 周年を記念して、大学が推進する環境教育のテキストを中国語に翻訳・出版し、台湾政府教育部等への寄贈式を行いました。

なお、建学の精神に基づく実践教育の充実に向けては、「産業界のニーズに対応した教育改善・体制整備事業」など、文部科学省等の大学教育支援事業 6 件の採択を受け、教育の質的向上とこれを支える教育環境の整備に取り組みました。

課外活動の面では、自転車競技部の紅一点、岩出愛未（まな）さんが、マウンテンバイクのジャパンカップでプロ選手に交じって 3 位入る健闘を見せました。また、同自転車競技部の木村知多賀選手は、西日本学生選手権大会の 1 km タイムトライアルで優勝。木村選手と藤本喜大選手、山本裕也選手の 3 選手は、チームスプリントで 3 位に入賞しました。ボウリング部は、学生日本一を決める全日本大学選手権で、男女両チームがダブル優勝しました。4 年ぶり 2 度目の快挙です。1 月に開かれた「スノーボード日本シリーズ 2013 尾瀬戸倉大会で、名産大 2 年の中北涼さんが、ナショナルチーム全員が参加するなか 4 位に入る大健闘を見せました。

【名古屋経営短期大学】

24 年度も、学生が他学科の「資格・検定」を取得することにより就職などでよい効果を上げることを期待し、総合ビジネス学科・子ども学科・健康福祉学科の選択科目を相互に履修できるカリキュラムを実施し、3 学科共就職率 100% を達成しました。

5 月に総合ビジネス学科は、商業ラッピング検定 2 級など 9 冠に輝いた学生を筆頭に 4 名の学生を検定・資格王として表彰しました。子ども学科では、学園が指定管理している尾張旭市立稲葉保育園の園児 34 名と学生たちが、歌や絵本、紙芝居などでふれあい交流を楽しみました。また、全 1 年生を対象にした実務講座「ライフプランニング」で、NTT ドコモから講師を招き、「ケータイ安全教室」を開きました。9 月には、3 学科の学生たちが東日本大震災による被災地へのボランティア活動も実施し、「KEIEITAN ボランティア隊」の旗印の下、仮設住宅や幼稚園へ支援物資のタオル、ハンカチを届け、津波で被害を受けた古民家の土壁の補修を手伝うなどの体験をしました。10 月には、稲葉保育園児と子ども学科 1 年生 45 名がハロウィンの交流を楽しみ、手作りのカボチャのペンダントやお菓子をプレゼントされた園児達は大喜びでした。12 月には短大で開催された日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会の学生プレゼンテーションコンテストで、総合ビジネス学科の学生が総合 2 位の優秀賞に輝きました。

【菊華高等学校】

24 年度は、懸案であった校舎（本館・北館）の耐震化工事に着手しました。6 月の下旬から始め 9 月に完成しました。8 月には、「菊武夏祭り」に合わせて 10 回目の愛知県中学生将棋選手権大会を開催致しました。10 月には、創立 50 周年を祝って、前身の守山女子商業高等学校の第 1 期生と恩師約 70 名が名古屋市のホテルで第 1 期生としては初めての同窓会を開催致しました。

課外活動の面では、箏曲部が 1 月、名古屋市で開かれた日本音楽部門発表会で、全国高校総合文化祭の愛知県代表に選ばれました。例年がない厳しい審査の中での優秀賞獲得でした。2 月には、普通科スポーツアクトコースのアクト系に所属する生徒約 20 名が、歌やダンス、楽器演奏など自分の得意分野で初の“学びのオーディション”を受けました。普通科スポーツアクトコーススポーツ系に入学した女子ソフトテニス部の 1 年生ペアが名古屋北地区予選を勝ち上がり、女子ソフトテニスとしては初めての県大会出場を決めております。

【菊武ビジネス専門学校】

24年度も引き続き3級以上の検定合格（資格取得）に力を注ぎ、延746名という多数の合格実績を上げました。10月には、専門学校新聞社主催「私の仕事」作文コンクールで、今年度も3年生の生徒が、「好きな仕事で夢をかなえる！」の課題で、全国専修学校各種学校総連合会会長賞に輝き、学校も優秀団体賞を受賞しました。

課外活動の面では、6月に開かれた愛知県専修学校各種学校卓球大会男子個人の部で、優勝と準優勝に輝きました。また、ボクシングに挑戦している1年生が国体愛知県選考会のライトフライ級でベスト4に入る健闘を見せました。8月には、「にっぽんど真ん中祭り」に生徒と教員総勢100名が連続8回目の参加をし、多くの生徒にかけがえのない体験をさせることが出来ました。8月下旬には、生徒29名と教職員スタッフ7名が、宮城県石巻市雄勝町で復興支援ボランティア活動として漁港清掃に汗を流しました。12月には名古屋ガイシプラザで開かれたスピードスケート・ショートトラックW杯名古屋大会エキシビションで、更に、3月にはグリーンシティーカーブルテレビ20周年記念式典でも「にっぽんど真ん中祭り」で踊った鳴子踊りを披露しました。

【専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院】

24年度は、①学生募集の有利化を図るための早期内定（数値目標：100%）に導く就職指導、②「美・食・健康」業界へのアプローチと「企業間連携」の仕組みの構築、③学科別職場実習先の確保、④学科に即したアルバイト先の確保と支援、⑤「講師会」による就職先の確保及び就職活動の支援、⑥新規求人開拓及び本校支援企業への訪問活動 に取り組みました。

4月に名古屋市中区オアシス21で開かれた「本」と「花」を贈り合うサン・ジョルディの日を記念したイベントで、フラワービジネス科とブライダルビジネス科の学生が、花束の制作やウェディングドレスの発表に大活躍をしました。1年生向け「業界セミナー」として5月に「ネイルサロンオーナー」のセミナーを、6月に「フラワーショップオーナー」のセミナーを実施しました。7月に、トータルビューティ科の1日エステサロン、8月には、ブライダル科の学生にウェディングの実践を学ばせる「模擬結婚式」、全国フラワーコンテスト高校生大会を実施、11月にはフラワービジネス科の学生が運営する実習店舗「いろはな」を開店しました。2月には、卒業作品展が名古屋市のナディアパークで開かれ、ブライダルビジネス科の卒業生73名が花嫁のヘアメイクとドレスのショーを披露、フラワービジネス科の21名は、ブーケ製作などのショーを見てもらいました。

【菊武幼稚園】

10月に年長組の園児が春日井市民パレードに参加、11月に幼年消防クラブの発表、12月に生活発表会を開催、年少組は遊戯、年中組はオペレッタ、年長組はミュージカルを披露し、園児が一生懸命歌い、踊る姿に両親や祖父母が感激しました。2月、「ふれあい参観」を実施し、園児たちが講堂や教室に開店した遊園地、雑貨屋、お菓子屋が大賑わいでした。

【稲葉保育園】

24年度から園児達の「ふれあい球遊び」を始めました。6月保護者約30名が、短大子ども学

科の佐々木教授から乳幼児の心臓マッサージの方法などの蘇生法を乳幼児の人形を使って学びました。6月に園児らが田植えをし、11月に稲刈した新米での「おにぎりランチ」を保護者と共に楽しみました。1月には、地元のお年寄りの指導で凧作りをし、冬の晴れ空に揚げて楽しみました。

3. 平成24年度の主な契約

- 学園本部 : 経理情報処理システム契約、複写機リース契約、保安管理業務委託契約
 名古屋産業大学 : 出欠情報取扱システム保守契約、スクールアグリーメント購入契約
 1号館トイレ改修工事契約、駐車場造成及び整備工事契約
 名古屋経営短大 : ソフトウェア保守サービス契約
 菊華高等学校 : 本館・北館耐震化工事及び追加工事契約、音楽室改修工事及び家具工事契約
 学納金管理システムサーバー入替契約、体育館・体育館廻り改修工事契約
 菊武ビジネス専門学校 : PCリース契約、校用車リース契約、1号館防火設備修繕工事契約
 菊武幼稚園 : 通園バスメンテナンスリース契約
 名古屋ウェディング : ホームヘルパー2級課程講座団体受講契約

III. 財務の概要

1. 経年比較

当年度の決算について、前年度決算と比較しながら若干の説明を付してその概況をご報告いたします。なお、金額は千円未満を四捨五入して示しています。

(1) 資金収支計算書

(資金収入の部)

(単位：千円)

科 目	23年度決算	24年度決算	差 異	
学生生徒等納付金収入	1,869,378	1,814,958	△54,420	今年度は、大学、短大で在籍者数が減り、学生生徒等納付金収入は大幅減少となりました。
手数料収入	33,243	27,363	△5,880	
寄付金収入	21,778	9,514	△12,264	
補助金収入	680,220	792,587	112,367	国庫補助金は大学と短大で在籍者数が減り、収容定員充足率が下がったため減少したが、高校の耐震化補助金があって増加。地方公共団体補助金も高校の耐震化補助金と大学・短大以外での在籍者増加で同じ位増加。
資産運用収入	11,321	10,463	△858	
資産売却収入	1,290,000	410,000	△880,000	
事業収入	50,575	29,543	△21,032	
雑収入	160,259	51,671	△108,588	
借入金等収入	300,000	46,812	△253,188	大学で受けていた大口の受託研究収入がなくなり減少。
前受金収入	435,781	433,995	△1,786	
その他の収入	424,899	574,130	149,231	大型施設購入の借入がなく減少
資金収入調整勘定	△749,652	△647,293	102,359	
当年度資金収入合計	4,527,802	3,553,743	△974,059	
前年度繰越支払資金	1,397,515	802,935	△594,580	
収入の部合計	5,925,317	4,356,678	△1,568,639	前期末未収入金である「退職金財団交付金収入」等の増、高校校舎耐震化のための特定預金の繰入収入がって大幅増。

(資金支出の部)		(単位：千円)		
科 目	23 年度決算	24 年度決算	差 異	
人件費支出	1,901,010	1,625,188	△275,822	教職員・役員の人員減と給与・報酬の削減、退職金減で大幅減。
教育研究費支出	524,314	519,473	△4,841	大学における留学生比率が低下したため奨学金が減少。
管理経費支出	279,575	208,090	△71,485	高校志段味グラウンド売却に伴う仲介手数料、名古屋市体育施設買取後の整備諸経費、高校 50 周年事業など前年度限りの経費が無くなり大幅減。
借入金等利息支出	7,585	5,400	△2,185	
借入金等返済支出	341,232	203,329	△137,903	前年度の様な大型施設設備投資がありませんでしたので大幅減。
施設関係支出	840,922	346,897	△494,025	
設備関係支出	90,908	42,380	△48,528	前年度は高校の野球場買い替えに伴う売却差額を運用しましたが今年度はそれがないので大幅減。
資産運用支出	1,246,099	160,788	△1,085,311	
その他の支出	106,497	184,994	78,497	
資金支出調整勘定	△215,760	△86,688	129,072	
当年度資金支出合計	5,122,382	3,209,851	△1,912,531	
次年度繰越支払資金	802,935	1,146,827	343,892	
支出の部合計	5,925,317	4,356,678	△1,568,639	

(2) 消費収支計算書

消費収支計算について資金収支計算と重複する部分は省略し、資金収支計算で説明していない部分の説明を加えてその内容をご報告いたします。

(消費収入の部)		(単位：千円)		
科 目	23 年度決算	24 年度決算	差 異	
学生生徒等納付金	1,869,378	1,814,958	△54,420	一般寄付が現物寄付に振り替わり合算で微減し、前年度短大にあった大口の特別寄付がなくなり大幅減。
手数料	33,278	27,413	△5,865	高校校舎耐震化工事で補助金を頂きました。在籍生徒数も増え補助金が増えました。
寄付金	24,042	15,267	△8,775	
補助金	680,220	792,587	112,367	前年度は高校の野球場買い替えで大きな売却差額が出ていました。
資産運用収入	11,321	10,463	△858	
資産売却差額	750,293	0	△750,293	短大健康福祉学科で受入れの職業訓練生の数が減り受託事業収入が大きく減少しました。
事業収入	50,575	29,543	△21,032	
雑収入	160,455	52,179	△108,276	昨年度比退職者減で退職金財団よりの交付金が大幅減となりました。
帰属収入合計	3,579,562	2,742,410	△837,152	
基本金組入額合計	△ 367,471	△253,885	113,586	
消費収入の部合計	3,212,091	2,488,525	△723,566	

(消費支出の部)

(単位：千円)

科 目	23 年度決算	24 年度決算	差 異
人件費	2,042,742	1,632,596	△410,146
(退職給与引当金繰入額)	(89,322)	(50,368)	(△38,954)
(退職給与引当金特別繰入額)	(133,637)	(0)	(△133,637)
教育研究経費	741,154	749,156	8,002
(うち奨学費)	(201,112)	(193,953)	(△7,159)
(うち減価償却費)	(216,518)	(229,399)	(12,881)
管理経費	305,116	239,460	△65,656
(うち減価償却費)	(25,477)	(31,325)	(5,848)
借入金等利息	7,585	5,400	△2,185
資産処分差額	99,161	1,707	△97,454
徴収不能引当金繰入額	695	461	△234
徴収不能額	1,200	501	△699
消費支出の部合計	3,197,653	2,629,281	△568,372

前年度のような会計方針の変更による多額の退職給与引当金特別繰入をしておらず、教職員・役員の人員減と給与・報酬の削減、退職金減で大幅減。

大学で消耗品(ソフトウェア)購入があつて16百万増、減価償却額の増が13百万円あつて経費節減分で吸収できず増加。

高校野球場買い替えに係る支払手数料32百万減の他経費節減が奏功し大幅減。

前年度にあつた高校志段味グランド売却・移転に伴う移設できない建物・構築物の未償却残の一括除却が今年度はありませんので大幅減となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表について、前年度末からの増減の主なもの説明を付してご説明いたします。

科 目	23 年度決算	24 年度決算	差 異
資 産			
固定資産	13,491,138	13,470,336	△20,802
うち有形固定資産	11,251,549	11,383,888	132,339
その他の固定資産	2,239,589	2,086,448	△153,141
流動資産	1,869,586	1,771,884	△97,702
合 計	15,360,724	15,242,220	△118,504

高校校舎耐震化工事で建物簿価増、減価償却分差引いて152百万増加。その他の有形固定資産は、減価償却分簿価減少。

第2号基本金対応引当預金取崩。

授業料軽減借入金償還補助金回収で未収入金が減少。

科 目	22 年度決算	24 年度決算	差 異
負 債			
固定負債	1,072,840	957,810	△115,030
流動負債	917,864	801,261	△116,603
計	1,990,704	1,759,071	△231,633
基本金	17,111,475	17,365,359	253,884
消費収支差額の部合計	△3,741,455	△3,882,210	△140,755
合 計	15,360,724	15,242,220	△118,504

長期借入金△138百万、退職給与引当金7百万、長期未払金15百万。

今年度は期末退職者(退職金は翌月払)が少なかったため未払金が113百万減、授業料軽減借入金(短期相当分)18百万減、預り金17百万増で合計116百万減少しました。

1号基本金403百万、2号基本金△150百万の増減です。

(参考)

正味資産	13,370,020	13,483,149	113,129
------	------------	------------	---------

※ 正味資産＝資産－負債(＝基本金＋消費収支差額)

減価償却額の累計額	5,995,251	6,229,547	234,296
-----------	-----------	-----------	---------

借入金の状況

当学園の借入金は下表のとおりです。22年度より愛知県私学振興事業財団より新規の授業料軽減借入をすることはなくなりましたが、菊華高校及び菊武ビジネス専門学校の授業料軽減借入金として¥342,878,310、施設設備整備費借入金として¥46,812,000 合計¥389,690,310 の借入残を有しております。しかし、この授業料軽減借入金及び施設設備整備費借入金は、償還に要する財源を愛知県から授業料軽減借入金償還補助金及び施設設備整備費借入金償還補助金として全額補填を受けることになっておりますので学園としての返済負担は発生しないものです。

(借入金明細表)

(単位：千円)

借入先	23年度末残高	22年度末残高	増減	摘要
日本私立学校振興・共済事業団	420,000	360,000	△60,000	キタケスポーツヘルズ取得資金他
愛知県私学振興事業財団	486,207	389,690	△96,517	愛知県より全額補填あり
合計	906,207	749,690	△156,517	

2. 学校債の状況

当学園は、学校債を発行いたしておりません。

3. 寄付金の状況

当学園に対する寄付金は23年度24,024千円でありましたが24年度は15,267千円となりました。現物寄付が3.5百万増で一般寄付は4百万減となり一般寄付が現物寄付に振り替わった形となりましたが、特別寄付が8百万減少しましたので合計としては、前年度より減少しました。

IV. 決算期後に生じた学校法人の状況に関する重要な事実

該当する事実はありません。

V. 対処すべき課題

「少子高齢社会にあって年々厳しくなる学生・生徒・園児募集にどれだけ成果を挙げられるか？」言い換えれば「各部門が収入を安定的に確保し自立すること」が対処すべき最優先課題であることに変わりありません。